



東北防衛局広報紙
(東北6県の防衛に関する情報誌)

東北のかなめ

vol. 15
2011.6.30.

がんばろう!東北

—特別掲載—

東日本大震災と震災対応

- ・自衛隊の災害派遣、米軍の復興支援
- ・東北防衛局の震災対応(1)
- ・東北防衛局の震災対応(2)

6 4 2
5 5 3
7 5 3

(航空自衛隊松島基地)

津波により大きな被害を受けた航空自衛隊松島基地については、災害復旧に係る物資輸送のためにも早期復旧が望まれました。そのため東北防衛局は同基地の滑走路航空灯火施設等の応急復旧工事に従事しました。

(東日本大震災)



自衛隊・米軍による輸送支援



米軍による復旧活動



自衛隊による入浴支援



防衛省東北防衛局編集委員会編集発行
宮城県仙台市宮城野区五輪1丁目3-15
Tel 022-297-8208
ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>

自衛隊・米軍の災害派遣



△ 搜索活動

全国から陸海空各自衛隊の派遣部隊が東北地方に集結し、人命救助、避難者輸送、行方不明者捜索並びに給水、給食、入浴、医療、物資輸送等の生活支援、瓦礫除去等の災害復旧、各自衛隊音楽隊による慰問演奏など多岐にわたる活動を実施しました。



△ 慰問演奏



△ 医療支援



△ 物資輸送



△ 仙台空港での瓦礫除去



△ 「ソウルトレイン」(東松島市)

米軍の災害復旧活動
在日米軍は、搜索救助や物資・人員輸送を始め、仙台空港の復旧、石巻市並びに東松島市の学校及び港湾などの汚泥・瓦礫除去等に係る災害復旧・復興支援等を活動内容とする「トモダチ



△ 石巻市での瓦礫除去



△ 東松島市野蒜駅での瓦礫除去

作戦」を展開するとともに、津波被害により一部区間の運休が続くJR仙石線の復旧を目指し、自衛隊と協力しながら「ソウル(魂)トレイン作戦」と称して野蒜(のびる)駅、陸前小野駅及び駅周辺の瓦礫の除去を実施し、同線の早期復旧に向けた災害復旧活動を実施しました。



3月11日(金)14時46分頃、三陸沖を震源とする日本国内観測史上最大となるマグニチュード9.0の大地震が発生し、宮城県栗原市で震度7、仙台市宮城野区などでは震度6強を観測。東北地方の太平洋沿岸部を中心として未曾有の大津波が発生。自衛隊及び米軍による災害復旧活動が実施されました。

△ JR仙石線(東松島市)



△ 南三陸町



△ 仙台空港



△ 救助活動

日本国内観測史上最大となる東北地方太平洋沖地震により、東北地方の太平洋沿岸部を中心として未曾有の大津波が発生し、岩手県宮古市では明治29年の「明治三陸地震」を上回る最大遡上高38.9メートルを記録しました。北澤防衛大臣は、3月11日、大規模震災災害派遣を発令、14日には仙台駐屯地に東北方面総監を指揮官とする災統合任務部隊が編成されました。

自衛隊の災害復旧活動

特別掲載 東日本大震災と震災対応

関係機関への各種支援



△ 石巻市石巻商業高校における活動



△ 日米調整所における通訳支援

米軍活動支援

3月15日から5月1日までの間、語学力を有する職員を東北方面総監部に派遣（防衛本省・他地方防衛局からの支援要員を含む延べ約170名）し、

在日米軍が実施した空港・学校及びJR仙石線野蒜駅などの汚泥・瓦礫除去等の災害復旧活動にかかる支援を実施するとともに、日米調整所における日々会議への参加や所要の連絡調整の実施及び日米メンタルヘルス専門家会同等における通訳支援を実施しました。



△ 石巻市住吉中学校における活動



△ 東松島市浜市小学校における活動



△ 宮城県庁

3月11日の地震発災後、当局職員を宮城県庁及び東北方面総監部等に職員を派遣（5月末現在で延べ約300名）し、各種会議に参加して情報を収集するとともに、関係機関との連絡調整業務を実施しました。

宮城県庁においては、県対策本部会

関係機関への連絡員の派遣

3月11日（金）14時46分頃の地震発生から14分後の15時、東北防衛局は、増田局長を本部長とする「緊急事態等対策本部」を設置、局職員約200名が第三種非常勤務体制に入り、宮城県等への連絡要員の派遣、被害のあった自衛隊施設への技術支援、ご遺体安置所の遺族対応等の各種活動を行いました。



△ 災統合任務部隊司令部（東北方面総監部）

議や政府の緊急災害現地対策本部会議に参加し、各種の情報収集並びに連絡調整を実施しました。また、陸自東北方面総監部においては、午前・午後を実施される調整会議等に参加し、各種の情報収集をするとともに、部隊への技術支援活動や日米支援活動などに係る連絡調整を実施しました。

東北防衛局の震災対応(1)

遺族対応

（ご遺体安置所における支援）

東北防衛局は、宮城県知事からの要請により、3月18日から4月18日までの間、旧石巻青果花き地方卸売り市場（石巻市）や旧角田女子高等学校（角田市）等8箇所のご遺体安置所に職員を派遣（防衛本省・他地方防衛局からの支援要員を含む延べ約500名）し、遺族対応等を実施しました。



△ 局長による遺族対応に赴く職員への訓示

防衛省所管行政財産（周辺財産）の使用

東北防衛局は、宮城県東松島市や青森県三沢市からの要請により、飛行場等の周辺に所在する防衛省所管行政財産（周辺財産）を、津波による瓦礫や災害ゴミ、被災車両を一時的に保管する集積場所として使用許可しています。



△ 松島基地周辺地区（被災車両）

米軍活動支援の現場より

企画部 業務課 工藤 睦美

私は、震災発生後、在日米軍が「トモダチ作戦」を展開するに当たって、自衛隊と調整を行うため開設した日米調整所（東北方面総監部内）において、3月19日から5月1日までの間、東北防衛局の米軍活動支援として通訳業務に従事しました。

施子供達へのプレゼント（リュック）の配布などについても話し合いが行われ、避難所への慰問等が行われました。

この日米調整所で日々開催されていた調整会議では、救援物資の輸送や瓦礫撤去などの作業調整はもちろんですが、被災者の精神面にも目を向けた、避難所等での日米合同の演奏会の実



△ 日米調整所の皆さん



△ 米軍中佐との調整状況

このように在日米軍の迅速かつ献身的な支援活動は、被災者にとって大変心温まるものであり、被災者からの感謝の言葉は一緒に勤務した私にとっても喜ばしいものであります。最後に、今般の大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福と、在日米軍も心から願っている被災地の早期復興をお祈り申し上げます。



△ 緊急事態等対策本部会議状況

自衛隊施設の復旧



△ 多賀城駐屯地 応急危険度判定

今回の大震災により自衛隊の建物等も大きな被害を受けました。東北防衛局は、東北方面総監部の要請を受け、震災当日から5月13日の間で、仙台駐屯地の31棟を始めとして、多賀城駐屯地28棟、船岡駐屯地14棟、大和駐屯地9棟、霞目駐屯地14棟及び松島基地39棟の建築物について応急危険度判定を行いました。

その結果、損壊した格納庫の大扉が損壊しているものなど、放置しておくことと危険と判断された施設等については早期に復旧工事を行うこととなりました。

応急危険度判定

東北防衛局は、建築・土木・設備課の職員からなる技術支援班を編成し、震災により被害を受けた自衛隊施設の復旧に向けた技術的な支援を実施しました。

松島基地の舗装調査と復旧

今回の大震災で甚大な被害を被った松島基地は、災害復旧や防衛の観点からも早急に機能を復旧させる必要がある重要な施設の一つです。

そのため、東北防衛局は、松島基地の要請を受け、職員を現地に派遣し、3月14日の夜明けとともに、滑走路全面における舗装のひび割れや段差の有無など復旧に問題のある箇所の計測及び記録を行い、更には、簡易的に舗装強度を確認するため、大型重機を載せたトレーラーを滑走路上で低速走行させ、たわみの有無の確認を行いました。

これらの調査等の結果、確認された段差の補修を完了した16日から、松島飛行場を利用した自衛隊航空機による物資輸送を開始することができました。



△ 松島基地 舗装調査

東北防衛局の震災対応(2)

松島基地の航空灯火施設の復旧

今回の大震災により、松島基地の飛行場の航空灯火施設はその大部分が損壊しました。一方、救援及び支援物資の輸送が増大する中であって、松島基地では昼間だけでなく夜間の離着陸機能の回復が急務となりました。

これらの状況から、東北防衛局としては、電気及び通信関係の技術要員を現地に派遣し、3月23日から29日までの間、昼間は輸送機が運行していることから夕方から早朝にかけて、被害のあった滑走路灯、誘導路灯、進入角指示灯等の応急復旧作業を実施しました。

これら航空灯火施設の復旧に伴い、輸送機の夜間の離着陸が開始され、増大する被災地への物資輸送に対応することができました。



△ 松島基地 航空灯火応急復旧

松島基地の燃料施設の復旧

松島基地にある3基の地上覆土式燃料タンクは、今回の大震災により電気系統を喪失したため、給油ポンプ類が稼働せず給油できない状態となりました。

しかし、タンク内にある航空燃料は、救援物資の輸送等に運用される自衛隊ヘリの燃料となるため、給油施設の早期の復旧が必要となりました。

東北防衛局は松島基地の担当者らと技術的な検討を重ねた結果、手動によるバルブの開閉により燃料を流下させる「重力式給油方式」を提案し、航空燃料約3700klの供給が可能となりました。



△ 松島基地 燃料施設復旧

大滝根山分屯基地の被害調査

福島県に所在する大滝根山分屯基地も今回の大震災により被害を受けましたが、福島第一原子力発電所から30km圏内に所在するため、震災後直ちに被害状況調査をすることができませんでした。

4月22日に屋内待避指定エリアが解除されたことから、東北防衛局は4月25日と26日の二日間、職員を現地に派遣し、放射線測定機を携えた自衛隊員



△ 大滝根山分屯基地 進入路等被害調査

山田分屯基地のヘリポート被害調査

岩手県宮古市に隣接する山田分屯基地は、今回の大震災によりヘリポートの基礎や進入路の路肩にひび割れが発生するなど大きな被害を受けました。

東北防衛局は、職員を現地に派遣し、これらの被害状況調査を実施した結果、ヘリポートの機能に支障がないことが確認されたことから、災害救助のヘリコプターの離着陸が可能になりました。



△ 山田分屯基地 ヘリポート及び進入路被害調査

—復旧作業の現場より—

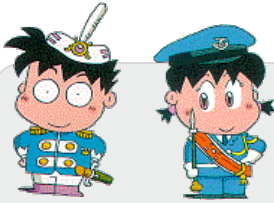
調達部 建築課
柏原 早絵子



私は応急危険度判定士として、今回被災した自衛隊施設の危険度判定を行いました。判定対象施設は避難施設としても大切な役割を担う施設であり、多くの人を素早く安全な建物へ避難させるためにも、この業務が重要である事を再認識しました。また、比較的新しい建物は構造的にほぼ問題がなく、現在の耐震基準が今回のような大地震にも耐え得ることを確認できたと同時に、津波に対する安全基準を整備する必要があることも実感しました。自衛隊施設も復旧工事が始まります。より安全な施設を建設していけるよう、頑張っていきたいと思っております。

と共に当該基地の被害状況調査を実施しました。その結果、復旧に向けた作業を開始しました。

- INFORMATION -



東北の主要な自衛隊広報

自衛隊(東北管内)が今後予定している広報行事等は次のとおりです。是非、見に来てください。

	開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先	
8月	空	8月27日(土)	平成23年度玉山地区 自衛隊音楽隊演奏会	玉山区渋谷文化会館 姫神ホール	北部航空方面隊総務部広報班 0176-53-4121
9月	空	9月4日(日)	三沢基地航空祭	三沢基地内	第3航空団司令部監理部広報班 0176-53-4121
	海	9月23日(金)	八戸航空基地祭	八戸航空基地	第2航空群司令部広報室 0178-28-3011
	陸	9月24日(土)	東北方面音楽フェスティバル	仙台サンプラザホール	東北方面総監部広報室 022-311-1111
	陸	9月25日(日)	東北方面隊 創設51周年記念行事	霞目駐屯地	東北方面総監部広報室 022-311-1111

※事前の申し込み、入場整理券等が必要なイベントもありますので、お出かけの前に問い合わせ先にご確認ください。

「復興に向けて」

東北防衛局長より



先般、未曾有の東日本大震災から「百日目」を迎え、被災地の各市町村において、合同慰霊祭が行われました。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

いまだ多数の行方不明者がおられる中、懸命の捜索活動が続けられておりますが、他方で、この「百日目」を一つの心の区切りとして、「がんばろう!東北」の掛け声の下、復興のための槌音の響があちこちから聞こえてきているように思えます。被災地の一日も早い復興を祈念してやみません。

さて、自衛隊は、十万人態勢の下、災害対処としては初めての統合任務部隊を

組織し、全国の部隊を被災地に送り込み、また初めて予備自衛官を招集しました。原子力災害派遣も初めて行われました。米軍も前例のない規模での支援をしてくれました。東北防衛局においても、全国の地方防衛局等の職員が送り込まれ、総力を挙げて対応してまいりました。

このような全面的な取り組みと、隊員一人一人の自己犠牲の精神に対し、称賛と感謝の声が寄せられています。先日もある会合で、気仙沼の会社役員の方が、「自衛隊が家族の遺体を捜し出してくれたのだが、何から何まで本当に良くやってくれた。頭が下がる思いだ。自衛隊の誰にお礼を言っているのか解らず、悶々としていたのだが、今日局長にお礼を言ったら少しサッパリした。」と目を潤ませながらおっしゃっていました。

私自身、隊員、特に若い隊員の誠実かつ真摯な態度に接するとき、真に感動を覚えます。日本の若者はまだまだすてたものではないぞという意を強くします。今後とも復興に向けて難題は尽きず、原発に係る対応も続いています。が、ぜひ若い力を柱に皆が一致団結してこの難局に立ち向かい、必ずや立派に復興できることを確信しています。がんばろう!東北。